

「日本・サウジアラビア ビジネスカウンシル特別会合 2024」の開催

2024年5月30日
一般財団法人 中東協力センター

「日本・サウジアラビア ビジネスカウンシル『特別会合』2024」が5月22日、都内のホテルで開催されました。日本・サウジアラビア ビジネスカウンシル（以下「日サ BC」）は、日本・サウジアラビア両国間の投資、技術移転、貿易、人材開発など幅広い経済協力の促進のため、両国民間セクター間での情報・意見交換、人的交流を行うことを目的として、定期的を開催され、中東協力センターはその事務局を務めています。

サウジアラビアのモハメド・ビン・サルマン皇太子の公賓としての訪日に合わせ、サウジアラビア側から開催要請があり、準備期間が短いことから、「特別会合」として開催いたしました。

サルマン皇太子の訪日キャンセルはありましたが、日本側からは、急な呼びかけにも拘らず、2019年10月以来の対面会合ということもあり、会員企業・団体から34名、サウジアラビア側からは訪日メンバー8名に加え、駐日サウジアラビア大使館から1名が出席しました。

今井誠二共同議長（みずほフィナンシャル・グループ取締役会長）からは、「日・サビジョン 2030」の進展によって、製造業、医療、エンタテインメントなどさまざまな分野で両国関係が一段と活性化していること、来年の外交樹立70周年に向けたさらなる進化への期待や今年度の本会合に向けた準備などについて発言がありました。サウジアラビア側の代表であるアル・ラカン・ヌーフ副共同議長からは、これまでの日サ BC が両国関係強化に貢献してきたことや今後も戦略的パートナーシップを構築することで、さらなる成果を目指す意向が述べられました。

中東協力センターからは、次回の本会合で議題とすることにつき日本企業が興味を持つ8分野^(注)について説明いたしました。サウジアラビア側からは、Public Investment Fund (PIF) についての理解を深めるためにフューチャー・インベストメント・イニシアティブ・フォーラムへの参加提案や脱炭素分野および鉱物資源開発の取り組みの紹介があり、また8分野に限定せず他分野にも目を向けるべきとの意見も出ました。サウジアラビア商工会議所連盟アル・ハルビ副会長からは、自動車産業やクリーンエネルギー分野での関係強化についての発言がありました。

(注)「8分野」：NEOM、脱炭素、地域統括会社、PIF、エンタテインメント、消費者動向、半導体、鉱物資源。

中東協力センターは引き続き、日本とサウジアラビアの民間セクター間の直接交流を進める日本・サウジアラビアビジネスカウンシルの活動を事務局として支え、両国の経済協力の深化に貢献して参ります。



###